

SICE東北支部50周年記念学術講演会原稿見本 (副題)

Commemorative Annual Meeting of the 50th Anniversary of the Founding of SICE Tohoku Branch
(Sub title)

宮城 一郎 (宮城工大), 岩手 二郎 (岩手工大), 青森 三郎 (青森医大),
山形 四郎 (山形工業), 福島 五郎 (福島情報研), 秋田 六郎 (株)秋田)

Ichiro Miyagi, Jiro Iwate, Saburo Aomori,
Shiro Yamagata, Goro Fukushima, Rokuro Akita

キーワード: 多点計測 (multi-point measurment), フーリエ変換 (Fourier transform),
回帰分析 (regression analysis), 最適推定 (optimal estimation), 雑音除去 (noise elimination)

〒000-0000 仙台市青葉町2014 宮城工業大学大学院工学研究科機械工学専攻 仙台研究室
宮城 一郎, Tel: (000)123-4567, Fax: (000)123-4567, E-mail: ichiro@miyagitech.ac.jp

1. はじめに

この度は, 計測自動制御学会東北支部50周年記念学術講演会に発表をお申し込みいただき, 誠にありがとうございます。講演原稿は, 以下の作成要領に従ってご準備下さい。

原稿は, A4二段組みで, 2または4ページとし, ページ番号は付けないで下さい。マージンは, 上下は各2cm, 左右は各1.5cmとして下さい。また, 原稿は, PDFファイルでの投稿をお願い申し上げます。

2. 題目等

本見本を参考に, 以下の項目をご記入下さい。

1. 邦文題目 (14ptゴシック体, ボールド, 行間18pt)
2. 英文題目 (12pt, 行間16pt)
3. 和文著者名および所属略称 (12pt, 行間16pt) (登壇者に付ける)
4. 英文著者名 (10pt, 行間12pt) (登壇者に付ける)
5. キーワード (10pt, 行間12pt)
6. 代表者連絡先 (10pt, 行間12pt) (記載事項は見本を参照)

3. 本文

3.1 文章

本文の文章は9pt, 行間14pt程度として下さい。また, 口語体とし, 当用漢字およびかなを用い, 新かなづかいによるものとします。外国語はカタカナまたは言語のままとします。

用語はなるべく文科省またはJISで制定されたものを用いて下さい。また, 単位は国際単位(SI)を用い, 数字はアラビア数字を使うものとします。量および単位記号(ローマまたはギリシャ文字)はなるべくJISで制定されたものを使用することとします。

3.2 脚注

脚注は, 本文の下に横線を引き, その下に記入して下さい。記号はページ毎に*印を使うものとします。

3.3 数式

変数名は, 基本的にイタリックとし, 式番号は式の右端に付して下さい。

$$\frac{\partial u}{\partial t} + u \frac{\partial u}{\partial x} = -\frac{\partial p}{\partial x} + \frac{1}{Re} \frac{\partial^2 u}{\partial x^2} \quad (1)$$

3.4 図表

図表は, 基本的には計測自動制御学会論文集の書き方に準拠します。図の表題は図の下に, 表の表題は表の上に付けます。表題は, 和文と英文の両方で書くのが望ましいが, どちらか一方でも構いません。印刷の都合上, 図表は白黒またはグレースケールにして下さい。例を図1に示します。

4. 文献の引用

4.1 形式

参考文献のリストは, 本文の末尾に纏めて書き, 次の形式によるものとします。

4.1.1 雑誌のとき 連番) 著者: 論文題目, 誌名, 巻-号, 始ページ/終ページ (年)
例:

- 2) M. Yoshizaki, H. Takeshita, M. Ohsawa and Y. Saki: A frequency domain hypothesis for human postural control characteristics, IEEE Eng. in Med. and Biol. Magazine, **11**-4, 60/63 (1992)



Fig. 1 Visualization result with adaptive colormaps.

4.1.2 単行本するとき 連番) 著者: 書名, 始ページ/終ページ, 発行所名(発行年)

例:

1) 杉山守弘(編): 両半球の神経心理学, 234/236, 朝霧出版 (1991)

4.2 引用

引用箇所に番号を右肩に小さく記入して下さい.

例:

神経系の遠心性コピー情報¹⁾は, ここでは認められないといわれている^{2, 3)}.

5. おわりに

細かい書き方は, 計測自動制御学会論文集に準拠して下さい.

参考文献

- 1) 杉山守弘(編): 両半球の神経心理学, 234/236, 朝霧出版 (1991)
- 2) M. Yoshizaki, H. Takeshita, M. Ohsawa and Y. Saki: A frequency domain hypothesis for human postural control characteristics, IEEE Eng. in Med. and Biol. Magazine, **11**-4, 60/63 (1992)
- 3) 笠間健, 朝比奈敏之, 吉田崇, 辻岡三郎: 脳波を用いた3次元運動計測システム, 計測自動制御学会論文集, **19**-12, 997/1003 (1983)